

2024
6.15

特定非営利活動法人
すがもきっず発行

広報

すがもだより

【後援】相模原市 相模原市教育委員会 相模原市社会福祉協議会



【第2回学習困難児研究会@青葉小学校】 主催：特定非営利活動法人 **すがもキッズ**

2024年10月5日（土） 10:00～12:00（10分休憩あり）

- ・第1部 ～研究会～
子どもの特性を一因とした不登校の
予防と不登校時の支援
- ・第2部 ～対談～
支援が必要な子どもの本当の気持ち
～高校生活から現在まで～

ご参加お申し込み
QRコード



駐車スペースもご用意がありますので、
車でのご来校も可能です。

※敷地内での盗難及び事故等につきましては、一切責任を負いません。



ホームページ

特定非営利活動法人「すがもキッズ」

<https://sugamokids.or.jp/>



前相模女子大学
子ども教育学科 特任教授
学校心理士 大里 朝彦

発達障がい児を含めて支援を必要としている子どもは、学校生活や社会生活、対人関係において、自分なりに努力をして歩んでいます。しかし、その歩幅が狭く、時間もかかり、なかなか成果や結果が出せないこともしばしばです。そのようなときに、周りの人たちが「もっと頑張れ。」「努力が足りない。」など、自分の価値観で判断したり、自分の理想を押しつけてきたりしてきたら、どうなるでしょうか。子どもの意欲や目標は失われます。支援を必要としている子どもに、40歩あるくことを強要するのではなく、クラスの40人が全員一歩、その子どもに近づく歩みをする必要があるのでしょうか。40人の歩みは斉一な必要はなく、それぞれの子どもの考えや行動、感性に委ねることが大事です。「一人の40歩ではなく、40人の一歩から」です。まずは、理解。そして、自分のできる行動。すがもキッズの研究会は、そのことを考え学ぶチャンスです。



【第1回学習困難児研究会のご報告】

報告者：西川英佑

2024年度第1回学習困難児研究会にご参加いただきありがとうございました。すがもキッズの活動も知ってもらいたいという気持ちが大きすぎて盛りだくさんの内容になってしまいました。開催後にご参加頂いた方々とお話をさせていただいたときに「良い会だった」「もっと話を聞きたかった」と声もいただくことが出来ました。多くの方々が来場できるように体育館の利用を快く了承していただいた青葉小学校校長の須永先生にも感謝しております。周りの友達や大人たちとお互いに歩み寄り理解し合えれば、助け合える共存できる社会がある。そう信じて、すがもキッズは活動しています。お互いの特性や個性を理解し、苦手な所を助け合うことで「排除してしまう社会」から「共存する社会」に変わります。一言に「発達障がいだからね」と終わらせることをせず、お互いに「発達障がい

だから何？」と言える社会が暮らしやすさや生き甲斐になっていくのではないのでしょうか。世の中では、残念ながら大人たちが偏見の目を作ってしまったように感じています。子どもたちの純粋な目は「発達障がい」や「支援が必要な子」という風には見てはいないのではないのでしょうか。そのような純粋な心を大切に、その心のまま大人に成長していければ共存できる社会が実現できるのではないのでしょうか。

【第1回学習困難児研究会プログラム】

1. 挨拶（代表：西村先生）
2. ビデオメッセージ（丹治先生）
3. 支援が必要な子どもたち（林先生）
4. ～対談～（西村先生とゆいのさん）
5. 伝えたいこと（大里先生）
6. 伝えたいこと（原野先生）
7. 伝えたいこと（大橋さん）
8. 最後に（西村先生）



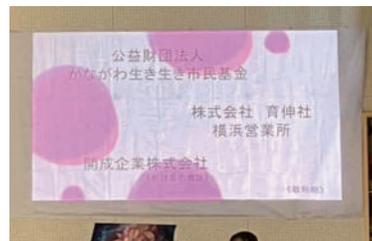
すがもキッズ代表 西村学より

みなさまのご参加ありがとうございました。6月15日の相模原市立青葉小学校での講演会は無事に終了いたしました。当日は、お天気に恵まれて暑いぐらいの体育館でしたが、参加者の方々も熱心にメモを取りながらお聞きいただき、本当にありがとうございました。今回は、子どもや子どもを取り巻く大人たち、それぞれの視点から「どのように見えているのか?」「どうすることが子どもを理解することになる?」など、多岐に渡り登壇者の方々にお話をいただきました。医学的な所見としては「シアトル在住の Dr. 丹治」、学校でのカウンセラーの立場から「臨床心理士の林先生」、苦しんできた当事者として「白百合女子大学の「ゆいの」さん」、相模原市立小学校校長経験者「大里先生」、中学校校長経験者「原野先生」、そして現在活躍中のパリンアーティスト「大橋美沙さん」に最も寄り添い、一番の理解者として育て上げたお母さん「大橋美穂さん」多くのアドバイスをいただくことができました。今回は、当事者の「ゆいのさん」が、どのようなキッカケで二次障害を克服してきたのか?（まだ乗り越えている最中ですが...）についてお話しします。引きこもりや自傷、ODなど二次障害に苦しんでいる方々は多くおられます。しかし、それは決して本人が望んでいるわけではありません。周りの大人や社会が、ちょっとしたキッカケを与えることで、子どもの未来は大きく変わります。そのキッカケとは何だったのか? 社会からの目線ではなく、二次障害に苦しんだ本人からの目線でお伝えします。ぜひ、今回の10月5日も多くの方に参加いただけますよう、改めてご案内いたします。



【すがもキッズが伝えていきたいこと】

子どもたちと大人の視点はまるで違います。大人にとっての当たり前前かがいことが子どもにとっては全く理解できないこともあります。大人からの目線で何かを伝えるのではなく、もう少し子どもの気持ちになって伝えてみませんか？子どもに幸せになって欲しいという親の気持ちはいつも同じであると考えたいですが、子どもに幸せになって欲しいと思うことと、無意識のうちに自分の考えを押し付けてしまうことでは、全く逆効果になってしまいます。



子どもには本当の意味での幸福感を得て欲しいと思います。それは「偏差値やIQ」という学力よりも「非認知能力(EQ)」によって大きく変化します。そのために子どもには否定語(それはダメだよ)を使わず肯定語(そうするといいね)と声掛けをして自己肯定感を高めることが重要です。「すがもキッズの研究会」を通じて多くの大人たちが子どもの自己肯定感を下げってしまうようなNG行動を学習し、少しずつでも相模原市内に浸透させることができれば、

先生方だけでは手が届かない約3,000人の困っている子どもたちに少しずつでも何らかの支援が届くようになるのではないかと考えております。学校任せにするのではなく、

保護者や地域が一丸となって取り組まない限り改善はされません。公的な窓口があっても子どもはそれを利用できないからです。ちなみに、偏食が激しい子どもや「ありがとう」が心から言葉に出来ない子どもは注視して付き合うことが大切です。



すがもキッズグループ代表
心理カウンセラー 西村 学

【ご協力頂いている企業・団体】※敬称略

- 公益財団法人 斎藤茂昭記念財団
- 公益財団法人 かながわ生き生き市民基金
- 株式会社 育伸社 横浜営業所
- 有限会社 開成図書出版
- 中央教育研究所株式会社
- 株式会社 プロッサム 横浜営業所
- NPO 法人 メダカのお弁当
- 教育開発出版 株式会社 横浜営業所
- 株式会社 富士産業
- 株式会社 ユニックス
- NPO 法人 びあっと
- 株式会社 tassa
- 開成企業株式会社
- 株式会社 明石スクールユニフォームカンパニー 横浜営業所



ご支援を
お願いいたします。

NPO 法人「すがもキッズ」は、皆さまに支えられて活動しております。



【すがもキッズはカンボジアの子どもたちの支援をしています！】

世界遺産アンコールワットから車で約1時間ほどにあるカンセンルー小学校を利用するソットニクム地区は465世帯。そのうち126世帯が貧困家庭。また、学校のあるカンセンルー村は161世帯、32世帯の貧困家庭、村民は713人が暮らしています。小学校は2004年に建設されましたが、配分される国の



予算は少なく、校舎が老朽化して壊れても修繕する費用すら捻出することができません。子供が増加しており教育を受けさせるためには新たな教室が必要ですが校舎を増築する費用がないため、約300人の生徒を午前と午後に分けて授業を行っています。子供たちが履いているサンダルやジャージ、自転車など、ほとんどが支援物資です。ノートやペンなども「すがも」のような団体から不定期に支援してもらっています。また、貧困家庭が4分の1を占めており1日に一食すら食べられない家庭も多いため、朝に給食を出しています。当然ですが予算はありませんので国連WFPより食糧支援を受け、わずかな食材を村人たちが調理して子供たちに分け合っています。足りない食材は教員たちが自分たちの給料から補って子供たちに食べさせています。キッチンが壊れて使えないので外で調理しています。井戸も壊れてしまい、食事の前に手を洗うことさえもできません。雨季に溜めた清潔とは言い難い雨水を少しずつ節約しながら使っているような状態です。コロナの影響もあり貧困家庭はさらに増加しています。校舎も老朽化が激しくなり、いつ崩れてもおかしくはない状態です。このような貧困な村ですが、是非とも世界の皆様に力を貸していただき子供たちの将来と一緒に守っていただけないでしょうか。

—カンセンルー村長・小学校長より—

「すがもキッズ」は、内閣府の管理下にあり相模原市を所轄庁とする特定非営利活動法人です。すがもキッズでは、相模原市内での学童クラブ運営を始め、カウンセリング業務、教育支援業務、各種講演会や相談会、海外への子どもたちへのボランティア支援などを実施しています。最近ではコロナ禍に見舞われる前2020年にカンボジアの小学校の子どもたちに文具などを届けることを実施しました。教育を通して社会に貢献することをスローガンとし、またSDGsにも賛同し「人や国の不平等をなくす」ことや「質の高い教育をみんなに」届けることを目標にしています。今回の研究会のテーマである「学習困難児」とは、学習が低い子どもという意味ではありません。学習に取り組みたいのに努力に見合った成果を出すことに苦労している子どもたちのことを指しています。これは外から簡単に見えることではないため、周りが理解したり気がついたりすることが大変困難なため見落とされる事が多くサボリや怠けと判断されてしまい、大人たちが理解してくれないことに失望する子どもも多くいます。研究会では、どうすることで気がつくことができるようになるのかを中心に勉強していきたいと思えます。

【特定非営利活動法人「すがもキッズ」の活動】

- ・カンボジア子ども支援
- ・発達障がい、グレーゾーンの相談受付
- ・学習困難児研究会の開催
- ・すがもキッズ専属の公認心理士の在籍
- ・SDGs推進 4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう

4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



さがみはら
SDGs
パートナー
さがみはら市 社会福祉部

SUGAMO
すがもキッズ
ADVANCE SCHOOL